つながる医療

社会医療法人大雄会
地域医療連携広報誌

第一泌尿器科部長
山羽 正義 医師

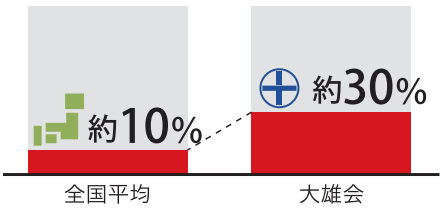
1982年　岐阜大学卒
●学会／日本泌尿器科学会、日本透析医学会
日本化学療法学会、日本泌尿器科内視鏡学会
●資格／日本泌尿器科学会専門医・指導医
日本透析医学会専門医、医学博士
●主な専門領域／泌尿器科全般、透析医療全般

透析センター

在宅患者さまからの問い合わせに24時間対応する体制で、腹膜透析（CAPD）の導入率を高め、患者さまのQOL向上に取り組んでいます。

大雄会第一病院の透析センターでは、
在宅療法の推進を目的に腹膜透析（CAPD）を積極的に導入しています。
全透析導入のうちCAPD 導入率においては、全国平均が約10％に対し、
大雄会第一病院の透析センターでは約30％となっています。こうした実績を
可能にしている体制について、泌尿器科部長・山羽正義医師に伺いました。

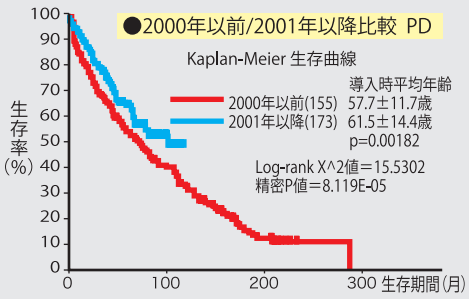
■腹膜透析（CAPD）導入率
（全国との比較）



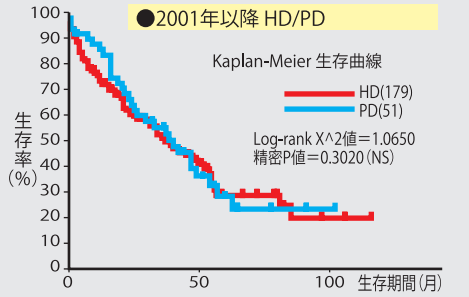
大雄会第一病院

透析センター

■当院のPD導入症例　生存率



■当院の70歳以上での導入症例　生存率



腹膜透析(CAPD)を積極的導入 高齢化・糖尿病合併でも生存率は向上

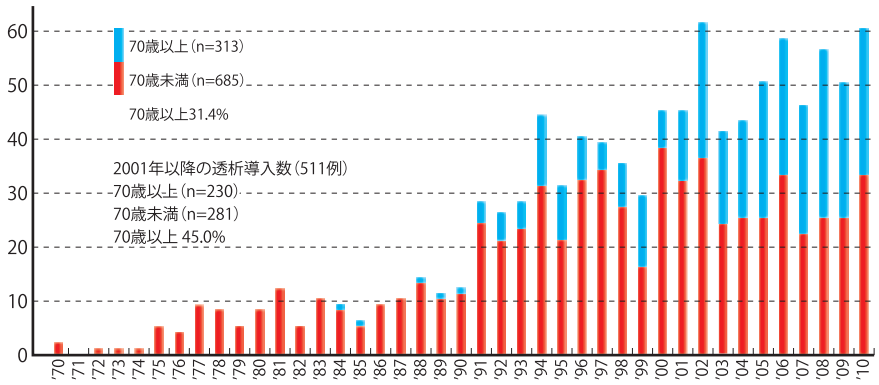
透析センターは、1970年に血液透析センターとしてスタートし、以来990例以上の腎不全患者さまに透析導入を行ってきました。現在は79床のベッドを擁し、増加の一途をたどっている透析患者さまに対応しています。当院では、"CAPD First"という方針のもとで、腹膜透析(CAPD)の導入を積極的に行っています。透析導入の約30%にCAPDを適用しており、全国平均の10%弱に比べると極めて高い割合となっています。CAPDは通院回数が月1～2度程度と血液透析(HD)と比べて極端に少ないことから、患者さまの負担とQOLを考えてCAPDを選択する意味はとても大きいと考えています。

CAPDを第一選択として検討する方針としているのは、2000年以前と2001年以降の全症例データの統計でCAPDを導入した患者さまの生存率が良くなっていること、近年の高齢化傾向を鑑みた症例分析では70歳以上において2001年以降のHD導入とPD導入の間の生存率でほとんど差はみられないことなどが挙げられます。また、高齢化とともに糖尿病の原疾患が増える中においても、70歳以上でのCAPD導入において、糖尿病の合併症を持った方とそうでない方の継続率において差はみられず、2000年以前より2001年以降のほうが、糖尿病症例が増加したにも関わらず継続率が上がっていることも基にしています。1990年以降70歳以上の透析患者の増加はめざましく、2001年以降の平均では、全患者における70歳以上の割合は45%(511例中230例)を占めるまでになっています。今後ますますこうした傾向が加速されると予想され、患者さまの負担が軽いCAPDの重要性が増すと思われます。

在宅の腹膜透析(CAPD)患者にも 24時間体制で対応 看護師なども高度専門知識をもつ チーム医療で可能に

一般的にCAPDの導入率が低いのは、自己管理することの難しさや合併症も要因のひとつです。当院では泌尿器科と透析の病棟があり専門スタッフが常駐しているため、自宅にいるCAPDの患者さまにも24時間電話で対応しています。「医療安全は、正確な医療知識と技術の習得」をモットーに、関わるスタッフ全員に専門教育を行い、看護師なども高度な知識をもちチーム一体となって患者さまのケアに取り組む努力で、CAPD導入率の高さを可能にしています。

■当院における年度別透析導入数 n=998



高齢化、糖尿病や心疾患などの合併に対応 総合的な腎医療の提供

昨年、日本の透析患者の原疾患統計において糖尿病が第1位となりました。また透析患者には心血管合併症も多いのが特徴です。2001年以降の当院のデータでは、70歳以上の透析患者さまのうち糖尿病を患っている割合は、43.47%となっています。なかでも糖尿病合併患者さまの下肢血行障害は大きな問題であり、ASO(閉塞性動脈硬化症)に対しては、創傷ケアセンター、IVRセンター、そしてこの秋から新たに開設された「あしの外来」と連携して治療を行います。また、心疾患においても総合大雄会病院との連携が可能です。

何時でも、どこが窓口でも、どんな症状でも受入

透析センターでは、泌尿器科とともに、病院からのご紹介、診療所からのご紹介、患者さま個人での受診、夜間でも、救急外来でも、どのような症状においても受け入れる方針です。

慢性腎不全(CKD)から末期腎不全(ESRD)へ進む前に対処していくのが第一ですが、初期症状が少ない泌尿器系の疾患は発見が遅れがちになります。少しでも疑問に感じたら、遠慮なくご相談いただければと思います。

「あしの外来」開設

こもだ　たくゆき
菰田 拓之 医師

9月1日より大雄会第一病院に「あしの外来」を開設しました。

透析センターとの連携を深め、下肢血行障害、さらには糖尿病患者さまのASO(閉塞性動脈硬化症)や足壊疽の対応などだけでなく、足全般に関する疾患の窓口として、どのような症状でも対応していきますので、いつでもご相談ください。

詳しくは、地域医療連携室までお電話ください。

tel.0586-26-2366(直通) **fax.0586-24-9999**

tel.0586-72-1211(代表)　●受付時間:月～金 8:30～19:00　土 8:30～12:30　※祝日、年末年始、4月3日除く

社会医療法人 大雄会
http://www.daiyukai.or.jp/

2012.10